

# 教育研究業績書

2016年10月01日

所属：教育学科

資格：准教授

氏名：中村 明美

研究分野	研究内容のキーワード
社会福祉学	社会福祉、保健、介護、特別支援教育、社会保障政策
学位	最終学歴
修士（社会福祉学）	吉備国際大学大学院 社会学研究科 社会福祉学専攻 博士課程 満期退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 家族福祉論	2008年03月	
2. 子ども家庭福祉のフロンティア	2008年03月	
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 社会福祉士	2004年03月	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 教育と福祉の課題	共	2014年8月	晃洋書房	第8章「障害児保育・教育と福祉を包括した支援一多職種連携による自立の共通理解への試み一」を執筆担当する。(pp.95-106.)
2. 人間の尊厳と自立/社会の理解	共	2014年7月	法律文化社	編者：伊藤良高他 共著者：中村明美、小野田正利、塩野谷 他 第2章「人間関係とコミュニケーション」 ・第1節「人間関係の形成」を執筆する。(pp73-77) 人間関係におけるコミュニケーションの意味、目的、仕組みを明らかにした ・第2節「コミュニケーションの基本」を執筆する。(pp78-86) コミュニケーションの基本として、自分自身を知ることの大切さとして、自己覚知、自己開示、自己提示、自己理解の方法を説明した。また、他者理解の基本として、受容、傾聴、共感について説明した。さらに、対人援助を行う上で、必要なツールや実際の支援技術を明示し、人間尊厳のためのコミュニケーションの意味を考える。 編者；田中博一、小坂淳子 共著者：中村明美 白井三千代、馬込武志 他
3. コミュニケーション技術/生活支援技術Ⅰ・Ⅱ	共	2014年3月	法律文化社	・第1章「コミュニケーション技術」第1節「介護におけるコミュニケーションの基礎」を執筆する。(pp1-10) 介護におけるコミュニケーションの目的、仕組みを明らかにした。さらに、コミュニケーション実践を具体的に呈示し、安心して暮らせるコミュニケーションについて述べる。 ・第1章「コミュニケーション技術」第2節「利用者の特性に応じたコミュニケーション技法の実際介護」7「福祉用具を用いたコミュニケーション」を執筆する。(pp40-46) コミュニケーションを支援する道具として福祉用具

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
4. 介護の基本/介護過程	共	2014年1月	法律文化社	<p>の果たす役割は大きい。その意義と具体的な事例を説明し、福祉用具が果たすコミュニケーションの意味を考える。 編者：中村明美、岩井恵子・井上千津子 共著者：小坂淳子他</p> <p>・第I部「介護の基本」第1章「介護の基本I」3節「介護の理念：尊厳を支える介護」を執筆する。(p. 29-46)</p> <p>介護の理念を支えるものとして、QOの向上と自立支援、リハビリテーションの活用、ノーマライゼーションの実現などを歴史的背景や法律、定義などを整理した。さらに、尊厳を支える介護とはなにかについて基本理念を述べている。</p> <p>・第II部「介護過程」第3章「介護過程I：理論編」6節「介護過程の展開」3「介護計画の立案」を執筆する。(pp216-225) 専門職として介護を実践するときに専門性を発揮するために重要になるのが、介護過程である。その介護過程の介護計画の立案方法を説明する。 編者：野中ますみ、川井太加子 共著者：野中ますみ他</p>
5. 子ども・若者政策のフロンティア	共	2012年4月	晃洋書房	<p>第三章「保育・幼児教育と子ども育成支援」を執筆担当する。(pp. 18-24.) 日本の子ども・若者政策の中で、子どもとその家族の子育て家庭の現状を明らかにした。さらに、就学前の子どもの保育・幼児教育の施策を整理し、課題を明らかに、今後の子ども育成と親。家族への支援を述べた。 編者：伊藤良高他 共著者：伊藤良高ほか</p>
6. 保育ソーシャルワークのフロンティア	共	2011年3月	晃洋書房	<p>第7章「保育所における保護者支援・子育て支援」を執筆する。(pp53-60)</p> <p>保育所における保護者支援・子育て支援へのソーシャルワークの実践事例研究である。支援に関係する専門職と、その支援の介入方法、支援に求められるソーシャルワーク視点などを明らかにしながら、事例分析、考察評価を行った。 編者：伊藤良高他 共著者：伊藤良高ほか</p>
7. 子ども家庭福祉のフロンティア	共	2009年4月	晃洋書房	<p>第3章「家庭の育児・子育てと子ども家庭福祉」を執筆する。(pp. 20-27) 子育て家庭の現状と課題や課題、さらに子どもと親・家族支援明らかにする。中でも特別な配慮を必要とする子ども親支援と子育ての経済的支援を取り上げ、子ども家庭福祉の課題を明らかにした。編者：伊藤良高他 共著者：伊藤良高ほか</p>
8. 家族援助論	共	2008年5月	ミネルヴァ書房	<p>第4章「家族援助の対象と理解」第一節「子育て家庭の課題と支援」第2節「障害のある子どもの家庭の課題と支援」(pp. 81~84) 第4節「特別な配慮を必要とする家庭の課題と支援」(pp100~108)</p> <p>子どもを支援する時には、その家族をも支援の対象としなければならない。制度や政策、支援策を上げ、その課題を明確にする。さらに、特別な配慮を必要とする子ども・家庭の課題と支援として、障害のある子どもと家族への支援を母親の妊娠時から子どもの出産、そして就学までを取り上げ課題と今後の支援を述べる。 編者：野澤正子 森本美絵 共著者：野澤正子 森本美絵他</p>
9. 社会福祉援助技術	共	2008年4月	大学図書出版	<p>「低出生体重児と親・家庭への子育て支援」 頁数P76 ~ P83 低出生体重児とその家族が抱える現状と課題を明確にした。そして、低出生体重児を養育する家族に、ソーシャルワーカーがソーシャルワーク技術のグループダイナミクス等の技術を活用しながら、親と家族が自らの課題を解決し、自立していく過程をのべ、その実践を評価考察する。ソーシャルワーカーがソーシャルワーク実践をおこない、個人や家族の成長や発達、QOLの向上を果たした事例研究</p>
<b>2 学位論文</b>				
<b>3 学術論文</b>				
1. 「当事者組織（がんサロン）によるがん患者の社会参加促進に関する研究」	単	2012年3月	島根大学邦文部山陰研究プロジェクト助成金による報告書『患者・住民参加を重視した地域包括ケア研究』2010-2011年度	<p>第4章「当事者組織（がんサロン）によるがん患者の社会参加促進に関する研究」を執筆する。(pp41-45) 日本ではじめてのがんサロンは島根県から発祥し、がんサロンのモデルとなり全国に広がった。島根県内のがんサロンの活動内容と支援、課題を明らかにした。がん医療の当事者であるがん患者の社会参加促進するための今後の課題を明らかにした。 研究</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
2. 「600時間の養成課程の介護福祉士養成施設における展開－スクーリング－」	単	2010年3月	独立行政法人福祉医療機構助成事業による研究報告書『介護福祉士通信教育課程に関する研究－印刷教材による通信課程の展開－』平成22年独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業による研究報告書	代表者：杉崎千洋 共同研究者 金子努、小野達也他 頁数：P41～45 5頁 法改正に伴い600時間の介護福祉士通信教育課程を設置することになり、日本介護福祉士養成施設協会はそのカリキュラムと内容を提示することになった。介護福祉士の質を担保または向上させることに塾足をおき、新たな600時間カリキュラムとその内容、スクーリングの内容を研究し提示した。(pp65-79) 研究代表者：田中博一 中村明美、小坂淳子、野中ますみ他 頁数：P65～79 15頁
3. 「イギリスシェフィールドでのホスピス緩和ケア」	単	2010年3月	科研報告書『医療・社会福祉連携による早期退院・地域移行促進と不必要な入院・入所回避策研究』平成20～22年度 科学研究費基盤B報告書 研究代表者：杉崎千洋	イギリスシェフィールド市におけるホスピスや緩和ケアのインタビュー調査の報告を含む。ホスピス緩和ケアシステムと中間ケアの関係を明確にし、日本におけるがん患者のホスピス緩和ケア施策への提言を行う。(pp60-71) 研究代表者：杉崎千洋 金子努、小野達也他 頁数：P60～71 12頁
4. 地域で暮らす虚弱高齢者への予防的介護の研究	単	2010年11月	法政論業（日本法政学会学会誌）	イギリスの高齢者ケアにおける中間ケアの現地調査を分析して、日本の現地調査を分析して、日本での高齢者政策の予防的介護と自立支援強化政策について提言を行う。
5. イギリス高齢者ケアの現状と課題	単	2010年03月	医療社会福祉研究（日本医療福祉学会学会誌）	イギリスで実践されている中間ケアの現地調査を基に、医療と福祉の連携による、入院回避、早期退院、施設入所回避策を分析考察する。
6. コミュニティにおける高齢者のホスピス・緩和ケア構築の条件	単	2007年04月	イギリスにおける医療・福祉サービス連携による質確保と予算確保管理システムに関する研究	杉崎千洋、児島美都子、金子努、小野達也、前田美也子 平成17～19年度科学研究費補助金（基盤研究（B））による。 ロンドン東部ルイッシュム地区のホスピス・緩和ケアにおける慢性疾患や終末期、強い疼痛、治療法がない人（子どもを含む）への医療や福祉の連携によるホスピス・緩和ケア構築の条件を調査した。ケアの質確保と予算確保のために、不必要な入院防止と退院促進について日本への示唆を提示する。
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
<b>2. 学会発表</b>				
1. 地域における虚弱高齢者の医療と福祉－イギリスの中間ケアから日本の高齢者施策への示唆－	単	2010年06月		イギリスの高齢者ケアにおける中間ケアの現地調査を分析して、日本の現地調査を分析して、日本での高齢者政策について提言する。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 『介護福祉士通信教育課程に関する研究－印刷教材による通信課程の展開－』平成22年独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業による研究報告書	共	2009年3月	『介護福祉士通信教育課程に関する研究－印刷教材による通信課程の展開－』平成22年独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業による研究報告書	法改正に伴い600時間の介護福祉士通信教育課程を設置することになり、日本介護福祉士養成施設協会はそのカリキュラムと内容を提示することになった。介護福祉士の質を担保または向上させることに塾足をおき、新たな600時間カリキュラムとその内容、スクーリングの内容を研究し提示した。 研究代表者：田中博一 中村明美、小坂淳子、野中ますみ他 頁数：P65～79 15頁
2. イギリスシェフィールドでのホスピス緩和ケア『医療・社会福祉連携による早期退院・地域移行促進と不必要な入院・入所回避策研究』平成19～21年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書	共	2009年3月	『医療・社会福祉連携による早期退院・地域移行促進と不必要な入院・入所回避策研究』平成20～22年度科学研究費補助金調査報告書	イギリスシェフィールド市での調査報告。ホスピス緩和ケアシステムと中間ケアの関係を明確にし、日本におけるがん患者のホスピス緩和ケア施策への提言を行う。 研究代表者：杉崎千洋 児島美都子、金子努、小野達也、中村明美 頁数：P60～71 12頁
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 退院支援における患者参加の規定要因に関する質的研究	共	2014年	科学研究費補助金（基盤研究（c））（研究	平成24年～26年度科学研究費補助金（基盤研究（c））継続

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
2. 退院支援における患者参加の規定要因に関する質的研究	共	2013年	課題番号24530700) 科学研究費補助金(基盤研究(c))採択(研究課題番号24530700)	平成24年～26年度科学研究費補助金(基盤研究(c))継続
3. 退院支援における患者参加の規定要因に関する質的研究	共	2012年	科学研究費補助金(基盤研究(c))採択(研究課題番号24530700)	平成24年～26年度科学研究費補助金(基盤研究(c))採択(研究課題番号24530700) テーマ「退院支援における患者参加の規定要因に関する質的研究」平成23年～26年度科学研究費補助金調査報告書 研究代表者: 杉崎千洋 研究分担者: 中村明美、金子努、小野達也他
4. 介護福祉士通信教育課程に関する研究—印刷教材による通信課程の展開—	共	2010年	平成22年独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業	法改正に伴い600時間の介護福祉士通信教育課程を設置することになり、日本介護福祉士養成施設協会はそのカリキュラムと内容を提示することになった。介護福祉士の質を担保または向上させることに焦点をあて、新たな600時間カリキュラムとその内容、スクーリングの内容を研究し提示した。 研究代表者: 田中博一 研究共同者: 中村明美、小坂淳子、野中ますみ他
5. 医療・社会福祉連携による早期退院・地域以降推進と不必要な入院・入院回避研究	共	2009年	科学研究費補助金(基盤研究(B))採択(研究課題番号19330128)	平成19年度から平成21年度科学研究費補助金(基盤研究(B))継続
6. 医療・社会福祉連携による早期退院・地域以降推進と不必要な入院・入院回避研究	共	2008年	科学研究費補助金(基盤研究(B))採択(研究課題番号19330128)	平成19年度から平成21年度科学研究費補助金(基盤研究(B))継続
7. 医療・社会福祉連携による早期退院・地域以降推進と不必要な入院・入院回避研究	共	2007年	科学研究費補助金(基盤研究(B))採択(研究課題番号19330128)	平成19年度から平成21年度科学研究費補助金(基盤研究(B))採択 テーマ「医療・社会福祉連携による早期退院・地域以降推進と不必要な入院・入院回避研究」(研究課題番号19330128) 研究代表者: 杉崎千洋 研究分担者: 中村明美、金子努、小野達也他
8. イギリスにおける医療・福祉サービス連携による質確保と予算確保管理システムに関する研究	共	2006年	科学研究費補助金(基盤研究(B))採択(研究課題番号16330123)	平成16年度から18年度科学研究費補助金(基盤研究(B))継続
9. イギリスにおける医療・福祉サービス連携による質確保と予算確保管理システムに関する研究	共	2005年	科学研究費補助金(基盤研究(B))採択(研究課題番号16330123)	平成16年度から18年度科学研究費補助金(基盤研究(B))継続
10. イギリスにおける医療・福祉サービス連携による質確保と予算確保管理システムに関する研究	共	2004年	科学研究費補助金(基盤研究(B))採択(研究課題番号16330123)	平成16年度から18年度科学研究費補助金(基盤研究(B))採択 テーマ「イギリスにおける医療・福祉サービス連携による質確保と予算確保管理システムに関する研究」(研究課題番号16330123) 研究代表者: 杉崎千洋 研究分担者: 児島美都子、中村明美、金子努、小野達也他

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2011年8月2013年3月	日本乳幼児教育学会第22回大会実行委員会 (武庫川女子大学於)
2. 2007年1月2008年3月	近畿ブロック保育士養成校協議会協会 第8回兵庫保育実習研究懇談会 運営委員 (武庫川女子大学於)
3. 2002年2月2004年3月	介護福祉国家試験実技試験委員